

ニホンウナギの回帰を目指した 震災湿地の順応的管理

〒988-0527
宮城県気仙沼市唐桑町西舞根133-1
電話:0226-31-2751
E-mail:info@mori-umi.org
http://www.mori-umi.org/



ひろげる助成

1年目

実践



仔稚魚調査の結果を市民・高校生に説明

生物調査回数 **6回**

環境教育の受け入れ人数 **648人**

今年度計画の達成度 **85%**

活動の全体目標に対する達成度 **30%**

課題

日本の沿岸域では森と海を行き来するニホンウナギ等の魚類が激減しており、津波防潮堤等の整備が環境の劣化に拍車をかけているため、沿岸水産業が衰退する恐れがある。

目標

津波で破壊された気仙沼市舞根地区において、民・学・官の協働により塩性湿地を再生し、ニホンウナギの生息環境を作り出す。このモデルケースを全国に発信する。

活動内容と成果

- 生物環境調査を年6回実施し、成果を学会発表した。
- 森は海の恋人体験学習として648名を受け入れ、全国各地で講演会を39回行い、出前授業を701名に行った。ニホンウナギ回復のためには汽水域環境の

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

行政が震災前後のニホンウナギの生息数と、生息場の科学的根拠を求めてきたが、震災前の記録は津波で流されて無かったこと。

■ 工夫した点

東北では大学等の公的調査データが無いが、過去に舞根を訪問した民間団体等の活動記録をweb上で徹底的に調べて見つけた。



再生が重要という認識を広めた。

●調査、教育、広報の成果をまとめて環境再生計画を気仙沼市および県・省に3回提案した。その結果、ニホンウナギが往来・生息しやすい河川護岸への作り替え(左岸)と、護岸開削(右岸)の許可を2018年3月に得ることができた。同様に、周辺地権者11名から事業同意を得ることができた。



気仙沼市との護岸工事に関する打ち合せ

今後の展望

事業主である気仙沼市および関係省庁、地権者との意見交換を密にし、連携体制を強固にする。環境調査、環境教育、広報活動はこれまで通り精力的に実施して、事業推進の後押しとする。